

2014.7.5(土) 新建新聞 6面

8月にもアーチ型帯工発注

「遠山郷いい川づくり」会議

「遠山郷いい川づくり」推進会議（玉置洋一会長）は6月25日、第3回会合を開催。26年度の活動計画を決めた。

冒頭、玉置会長は「遠山川の清流は地域の財産。その財産にしっかりと磨きをかけたい」と抱負。事務局長を務める県下伊那南部建設事務所

の柳瀬勝弘所長は「活発な意見が感想を聞きながら進めていきたい」とあいさつした。

事業報告によると、25年度はハード整備で和田中学校横で巨石根

固工と帯工を設置。河川愛護活動では推進会議メンバーのほか、地の建設会社や河川愛護団体、和田保育園の園児も参加し、約80人が河川敷の草刈りや、河津桜の移植、木橋修繕などを行った。

26年度の活動計画は、中橋下流の河床安定を図るため、アーチ型帯工（曲線長170・1m）を発注。今年度は予算の関係で半分ほどの発注となりそう。下流側の低い位置から順次施工する計画だ。予算が追加されれば、引き続き延ばしていく。8



26年度事業計画を決めた

出橋〜八重河内合流点のL2・5km区間で、河床低下の防災対策や自然植生の保全、河川愛護などの活動を目的としている。

月に工事発注し、9月には地元住民対象の説明会を実施する。ソフト事業では、現地見学会などを行うほか、河川愛護活動も継続する。「遠山郷いい川づくり」は、県の信州いい川づくりモデル事業に採択され、25年度から事業に着手した。飯田市南信濃和田集落の押

ハード対策は概ね5カ年で整備できる緊急性のある箇所を優先的に事業化する方針で自然石連結工法による巨石等を活用した帯工2基、床固工、巨石沈床工3基、水制工、護岸工（L65m）、高水敷整備工などを行う計画だ。27年度以降に左岸側の根固工、続いて右岸側の護岸未整備区間L64mの護岸整備（L65m）を行う。